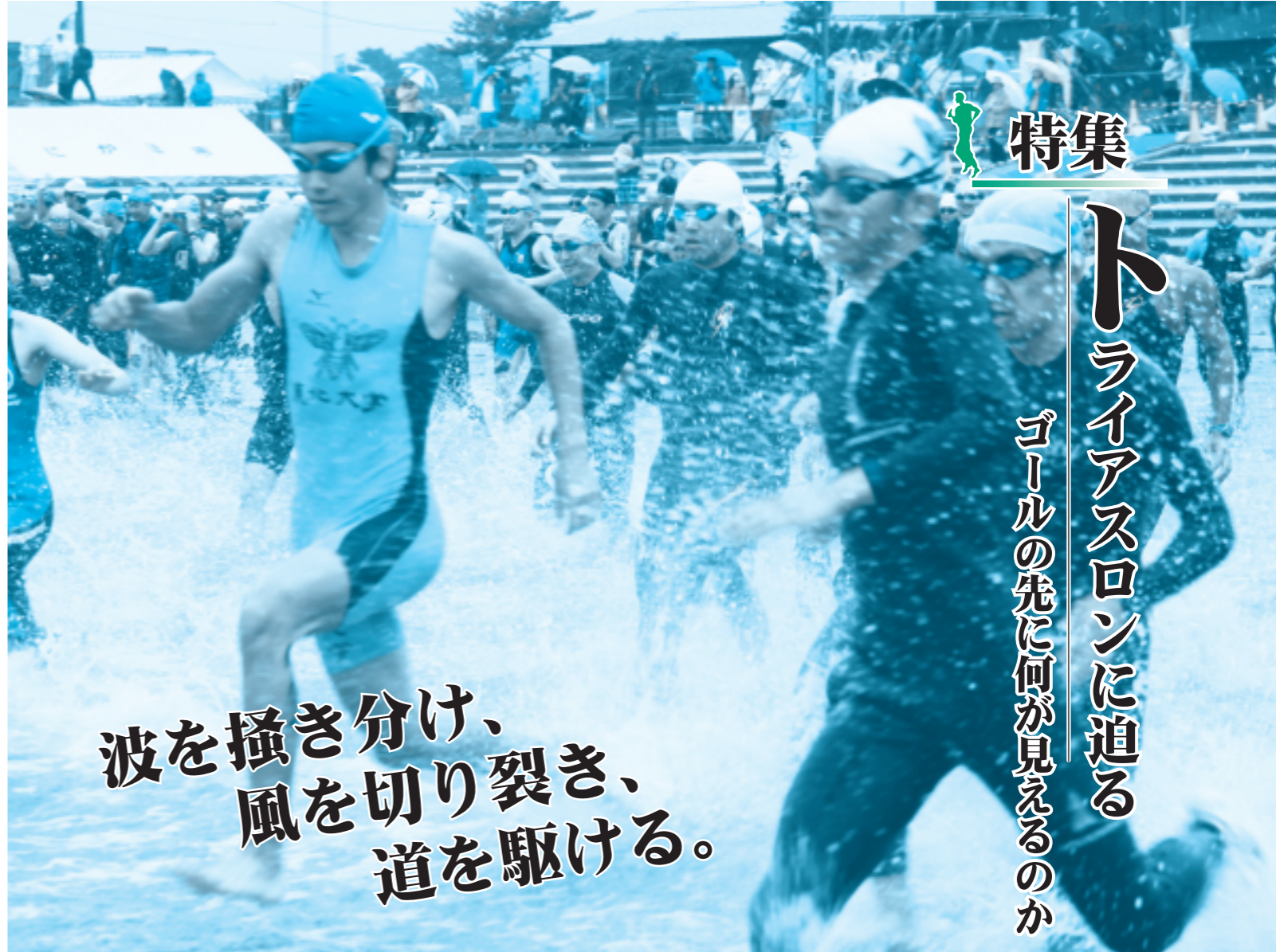


# 特集

## トライアスロンに迫る

ゴールの先に何が見えるのか



波を掻き分け、  
風を切り裂き、  
道を駆ける。

### 数字からみる芭蕉レース

#### 参加人数と気象条件

前回大会より33人の増加がみられ、特に関西方面からの参加が増えています。ボランティア参加者も市民の協力により象潟中学校、仁賀保高校、自治会などの参加が多くなっており、芭蕉レースが市民一丸となった大会であることを物語っています。また、レース当日の天候は、25回開催中、スタート時に雨が降ったのは3回。平均気温は25℃と、梅雨時期にも関わらず天気に恵まれた大会です。

#### 参加選手・ボランティアの推移

大会名（開催年）	選手	ボランティア
1回大会（昭和63年）	121	386
5回大会（平成4年）	431	1,563
10回大会（平成9年）	448	1,956
15回大会（平成14年）	472	1,850
20回大会（平成19年）	290	1,800
25回大会（平成24年）	302	1,650

### 大会実行委員会からトライアスロン芭蕉レース象潟大会コースの紹介

芭蕉レースの特徴は、コースの美しさにあります。まずスイムコースである象潟海岸は日本の渚百選に選ばれており、レース中はもちろん、レース後も雄大な日本海を堪能することができます。

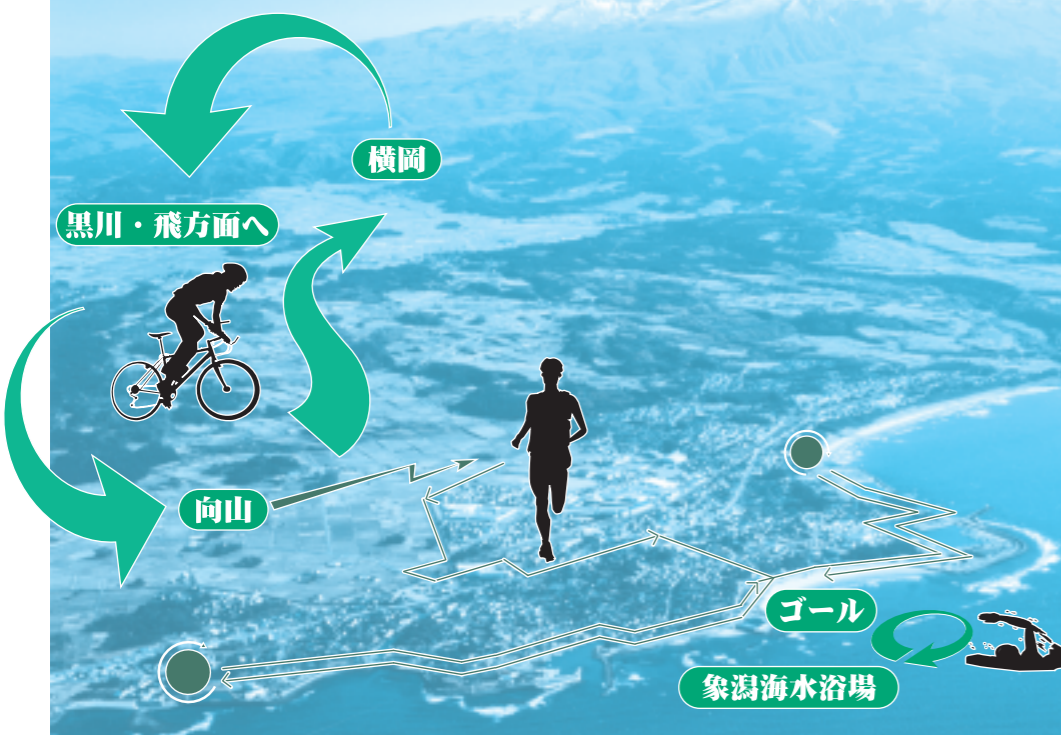
バイクコースは、俳聖「松尾芭蕉」が思いを馳せた九十九島の中からスタートするのですが、田園風景の中に浮かぶ島々の緑はトライアスリート心を癒してくれます。しかしながら、続島からの勾配12%の難所や、標高差200mのコースは一筋縄では攻略できないことも人気の秘訣です。にかほ市の豊かな自然を五感で堪能でき、さらに完走した時の達成感も得られる楽しい大会です！



大会実行委員長  
齋藤 進

### 芭蕉レース・コース概要

コース全長51.5km/標高差200m



スイム-swim-  
1.5km（ちよべつと0.75km）



バイク-bike-  
40km（ちよべつと32km）



ラン-run-  
10km（ちよべつと5km）

トライアスロンとは  
どのような競技なのか？

トライアスロンは、水泳（スイム）、自転車ロードレース（バイク）、長距離走（ラン）の3種目を1人で連続して行う競技で、1974年にアメリカで初めて開催されました。競技名の由来は、ラテン語で「3」を意味する「トライ」と運動を意味する「アスロン」を組み合わせた造語で、競技者のことを「トライアスリート」と呼びます。

現在は、オリンピックの正式種目にもなっており、また2016年の「岩手国体」からは国体正式種目になることが決定していることから、今後さらなる競技人口の拡大が予想されています。

秋田トライアスロン  
芭蕉レース象潟大会とは？

#### 開催に至った経緯

奥の細道行脚300年を迎えた昭和62年、俳聖「松尾芭蕉」ゆかりの地域性を県内外にアピールできるイベントを実施したいと考えた、当時の象潟商工会青年部が発案し、実行委員会が設立され実現しました。毎年7月第3日曜日に開催され、今年で25回を数える歴史のある大会です。

#### 芭蕉レースの特徴

俳聖「松尾芭蕉」を魅了した名勝地「九十九島」や霊峰「鳥海山」、雄大な「日本海」などの美しい自然をコースに取り入れ、にかほ市が持つ地域資源を有効に活用していることや、多くの市民ボランティアの手によって運営される、他には類を見ない、市民によるトライアスロン大会です。平成11年には、大会の地域振興性が評価され「地域づくり自治大臣表彰」を受賞しています。